

2025年度「BBCニュース」番組審議委員会 議事録

1. 【開催日時】 2026年3月11日（水）10:00 - 11:40
2. 【開催場所】 霞山会館「祥鶴の間」会議室（東京都千代田区）
3. 【出席委員】 審議委員総数 8名 出席 7名 書面による回答 1名

【番組審議委員】（五十音順、敬称略）

- 委員長 しばはら 柴原 きなえ 早苗（放送通訳者・大学講師）
- 委員 とよた 豊田 おきひと 沖人（外国文学翻訳士・元 NHK 海外放送 英語アナウンサー）
- 委員 ふじさき 藤崎 いちろう 一郎（一般社団法人日米協会 会長）
- 委員 ふじむら 藤村 あつお 厚夫（スマートニュース株式会社 フェロー）
- 委員 Marsha Krakower マーシャ・クラックワウ（聖心女子大学 英語文化コミュニケーション学科名誉教授）
- 委員 みやかわ 宮川 みちこ 倫子（倫 総合法律事務所 代表弁護士）
- 委員 もりた 森田 あきら 彰（早稲田大学 商学部教授）
- 委員 もりよし 森吉 なおこ 直子（慶應義塾大学 商学部教授）

【衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン】

- ふくだ 福田 いづみ 泉（代表取締役社長）
- ふなごし 船越 のぼる 昇（業務推進本部長）
- かわきた 川北 ももこ 桃子（編成局長）

【番組供給事業者：BBC スタジオジャパン株式会社】（以下、BBC）

- ひらばやし 平林 みか みか（ディストリビューション セールス マネージャー）
- みやこだ 都田 ともこ 智子（ヘッド オブ チャンネル オペレーション）
- たくち 田口 ひでみ 白出美（オフィス マネージャー）
- ふじさき 藤崎 みく 美来（マーケティング エグゼクティブ）
- あおき 青木 まなぶ 学（ディストリビューション セールス エグゼクティブ）

4. 議題

- BBC からの報告事項
- 審議対象番組に対するご意見、ご質問に対する回答

5. 報告事項

- 2024 年度の審議番組であった、『世界最高の鉄道旅行 日本の新ゴールデンルート編』が、旅行メディア分野で持続可能でポジティブな影響を与える観光に関するストーリーに送られる「Inspire Global Media Awards」の最優秀テレビ放送賞および、トラベル分野における優れたジャーナリズム、写真、放送を称える「Travel Media Awards」の最優秀番組賞を受賞しました。
- 新番組「アジア・スペシフィック：アジアを深掘り」が放送を開始しました（司会：大井真理子）。アジアの出来事・トレンドを、解説者や各地特派員と多角的に分析します。BBC ワールドサービスの YouTube 公式チャンネルでも配信しています。硬派なニュースに加え、「なぜアジアは痩せ信仰が強いのか」などアジアからの視点で、幅広いトピックを扱っています。

6. 審議内容

• 審議番組

『国連事務総長インタビュー』

放送日時： 2026 年 1 月 20 日（火） 09:30 - 10:00（二か国語放送）

<番組内容>

今年末に任期を迎える国連のアントニオ・グテーレス事務総長が、BBC のアナ・フォスター記者のインタビューに応じました。米国が国際法の規範 を超えた権力行使を行っているとは非難し、なぜ今こそ安全保障理事会の 緊急改革が必要なのかを語りました。

<選定理由>

今年度の審議番組は、アントニオ・グテーレス国連事務総長とのインタビュー特別番組を選定しました。ロシアのウクライナ侵攻やイスラエル・ガザ戦争の対応について、国連の機能不全が指摘される中、グテーレス事務総長 は、BBC との単独インタビューに応じ、厳しい質問に答えました。ノーベル平和賞を受賞したマリア・コリナ・マチャド氏との独占単独インタビュー同様、国内メディアでは難しい世界の指導者の生の声を日本の視聴者にお届けする機会を BBC ニュースチャンネルでは提供しています。

• ご意見および質疑応答

【番組内容について】

・国連事務総長に切り込むのは地味だが、優れた視点だと感じる。現代の矛盾や苛立ちを扱う重要テーマで、危機感を喚起する内容と評価できる。

・構成は 30 分で要点がよくまとまっていたが、国連の無力さを感じられ、結末で絶望感を感じる内容だった。

・なんの目的で、なにをポイントにして制作された番組かわからなかった。番組のフレーミング（枠付け）が、反国連的で、トランプ側に寄りそった印象すら与えかねないものだった。

・もともとは BBC Radio 4 で放送されたラジオ番組の TV 版であるが、Radio 4 らしい、冷静で、良質なインタビューだと感じた。映像化により、グテーレス事務総長の表情や身振りも読み取れるのは映像ならではの利点であった。

・グテーレス事務総長が英語のネイティブスピーカーでないため、時おり発音に聞き取りにくい箇所があるということに加え、同時通訳も不明瞭で、理解するのに時間がかかった。また、内容についても、事前にグテーレス事務総長の演説を読み込んでいないと、どのようなことが話されているか、把握するのが難しかった。

・画面上にテキスト情報による補足情報、たとえば要点をまとめたテロップや、アジェンダがあれば理解の助けになるのではないか。

【出演者について】

・手元のノートを見ながら進行するなど、経験不足を感じさせる若手のアナ・フォスターの起用の妥当性に疑問をもった。国連事務総長のような重要人物に対するインタビューではベテラン起用が望ましいと感じた。

・アナ・フォスターがインタビュアーを務めた他の番組（トルコ地震、金融首脳インタビュー）では彼女らしい鋭い質問が出ていたが、本作ではそれが感じられなかった。

【日本語同時通訳について】

・日本人視聴者にとっては、非ネイティブの英語は聞き取りづらいので、同時通訳の重要さが出た番組であった。内容は大筋で理解可能だが、細部理解の支援（字幕／テロップ等）があると望ましい。YouTube 等で実装されている AI 字幕の活用する可能性はないのか。

（BBC 回答）

字幕付与に関しては、事前収録された番組であっても放送直前まで編集をするケースが多く、日本に事前に素材が到着する番組が極めて限られているため、多くの番組に字幕の付与は難しい状況です。

ライブ放送の AI 字幕に関しましては、正確さが求められるニュースチャンネルの性質上、公の放送における使用がまだ難しいという見解です。引き続き、情報収集と検討を進めてまいります。

・本番組については、同時通訳者が事前に番組を視聴し、スクリプトも用意した上で本番に臨んでおり、品質がある程度保たれていると感じられた。

・同時通訳の性質上、会話のテンポや編集による話者の早急な切り替わりのため、文章を最後まで言い切れないことによる情報の欠落が出やすいと感じた。また、通訳を同性の二人が担当していたため、声が重なると誰が話しているか分かりにくかった。

（BBC 回答）

本番組に関しては素材が事前に入手できたため、事前に同時通訳者が準備を行うことができました。ただし、このように事前準備が可能な番組は非常に限られています。また、通訳者の担当割り当てについては、国際ニュース番組を同時通訳できるレベルの人材の確保自体が非常に難しいことに加え、BBC ニ

ユースの番組編成や出演者が事前に確定しないケースが多いため、常に番組出演者の性別や人数にあわせて通訳者の組み合わせを調整することは現実的に難しい状況です。引き続き、品質向上を本社と連携しながら検討してまいります。

・国連事務総長のような貴賓に対して、「あなた」という呼びかけは、日本人の感覚としては違和感をもった。また、「辺鄙な場所」という訳があったが、これも日本の放送では避けるべき言葉遣いと感じた。

【その他のご意見】

・視聴の形態がTVだけではなく、多様化する中で、モバイルで見る人、音声だけで聞く人向けそれぞれに最適な形でニュースを届ける必要性を感じた。

・ネット記事、アプリ、ポッドキャスト等の多面展開は良いが、同じ情報源を使ったにも関わらず、媒体によってそれぞれ日時表記のズレが発生している場合がある。（記事 19 日、動画 20 日など）ニュースを閲覧する上で、いつの情報なのか、ということは非常に重要な情報なので是正すべきと感じる。

・日本では米国のニュースは主に CNN と Fox を見るが、どちらも党派性が強いいため、自ずとより中立性が高く客観的な BBC を見る。その関係でクリケット T20 やマンチェスター・ユナイテッドもフォローしている。引き続き世界のためによろしく願います。

・ブレイキングニュースなど、特に見たい番組で通訳が付いていないことがあり残念に思うことがある。体制上、仕方ない面もあると思うが改善してもらえれば嬉しい。

・ニュース以外でも、BBC のトラベル系番組は品質が高く好感がもてる。広報を強化して広く認知してもらうと視聴者が増えると思う。

・CNN と見比べることが多いが、英語の発音の仕方や出演者の振る舞い、画面の構成面で年々似てきている印象を持っている。

・パノラマの問題に加え、英国アカデミー賞授賞式の編集ミスも発生し、BBC の編集・監修の体制に懸念を抱いている。BBC として、依然として正確性・中立性を掲げているが、スタッフ個人レベルでの規範の再徹底、再トレーニングが必要なのではないか。他のニュースメディアとの競争による時間圧で、正確性を担保する作業がおろそかになっているのではないか。

・審議した番組のように、生のインタビューならではの良さはたしかにあるが、それをユーザーの望む利用形態（自宅/モバイル、音声/テキストなど）に応じてさまざまな形で加工することで、リーチを拡大すべきではないか。テレビ放送の既存様式に囚われない刷新を行うことを希望する。

・BBC のネイチャードキュメンタリー系の映像を 4K でもっと見たい。現状、インターネットでしか 4K を楽しめないのでは残念に思う。暗いニュースが多い昨今では、穏やかで良質な映像へのニーズが高いのではないか。

(シーエス・ワントン回答)

現在、CS での 4K 放送は行われておりません。放送とインターネットとの融合は放送業界でも進行しており、BBC でも iPlayer を中心に普及が進んでいます。放送はインターネットに比べて、技術的な変化へすぐに追隨していくことが難しい面もありますが、各社で試行錯誤をしているのが現状です。

・BBC ニュースはロンドン中心の編成が多く、アジア情報や日本情報を増やしてほしい。特に、日本のホテルに滞在する視聴者は、日本の情報のニーズが大きいのではないかと。また、興味のある番組を見逃すことのないよう、チャンネル内での番組案内（オンエア予告）の強化を希望する。

補足：BBC ニュースでは、太陽の動きに合わせて、シンガポール、ロンドン、ワシントンの 3 拠点体制で、ニュース番組をお送りしており、いつ見ても、その時に起きている世界のトップニュースをご覧いただけるよう努めております。

日本の午前～日中の時間帯は、シンガポールとロンドンスタジオから、日本を含むアジア地域の最新情報をお届けしています。番組告知のご指摘については、チャンネル内だけでなく BBC ニュースの SNS での発信なども含め今後の発信に活かしてまいります。

・本番組審議委員会は、放送法第 6 条の番組審議機関に該当するのか。

(シーエス・ワントン回答)

はい。法定の番組審議機関として本チャンネルに設置しているものです。チャンネルの専門性を鑑み、弁護士を含む有識者の委員の方々により、審議番組およびチャンネルに対し、忌憚のないご意見をいただいております。

・BBC によるトランプ大統領の演説の不適切な編集問題に関しては、大きく失望した。BBC は関連記事(※)の中で、「当該映像に誤解を与える意図はなかった。長い演説を短くしたもので、編集に悪意はなかった。」としているが、納得できる内容ではない。公正中立を掲げる報道機関として、極めて不適切ではないか。自浄作用を求める。BBC の日本支社としての見解はどうか。

※「トランプ氏、BBC を来週にも提訴すると 演説映像の編集めぐり」<https://www.bbc.com/japanese/articles/cq19w9r46x9o>

(BBC 回答)

BBC は、2024 年放送のドキュメンタリー番組「パノラマ Trump: Second Chance」での編集手法に誤りがあったと認め、BBC 会長（ティム・デイヴィー）とニュース部門トップ（デボラ・ターナス CEO）が引責辞任しました。当該番組は英国向け公共放送で制作・放送されたもので、日本国内の BBC ニュースチャンネルでは未放送であるため、BBC スタジオジャパンとして個別対応は控えております。ただし、本件は BBC 全体の信頼性に関わる事案として重く受け止めています。透明性を高め、説明責任を果たすため、現在、BBC ニュースの日本語版サイトでは、解説記事や動画を優先度高く配信しています。すべての関連記事は、サイト内の「BBC」タグで一覧化してご覧になれます。

補足：今回のドキュメンタリー番組「パノラマ」での問題について、英国 BBC の理事会は内部レビューの実施を依頼し、編集指針基準委員会（Editorial Guideline and Standard Committee）に関して、また、流出したマイケル・プレスコット氏を書いたメモで提起された問題について、2025 年 12 月 19 日付で報告書を公表しました。

報告書（英語版）：

[BBC Board publishes reviews of EGSC and further review of Michael Prescott memo](#)

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出されたご意見については、主要な制作拠点である BBC 英国本社へのフィードバックを行うとともに、日本向けのローカライズ手法の検討の中でも参考にさせていただき、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めてまいります。

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2026 年 4 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載するとともに、放送番組としても公表します。

以上